

# 1～4号機原子炉建屋からの 追加的放出量評価結果 2018年9月分 (放出量評価の補足)

2018/10/25

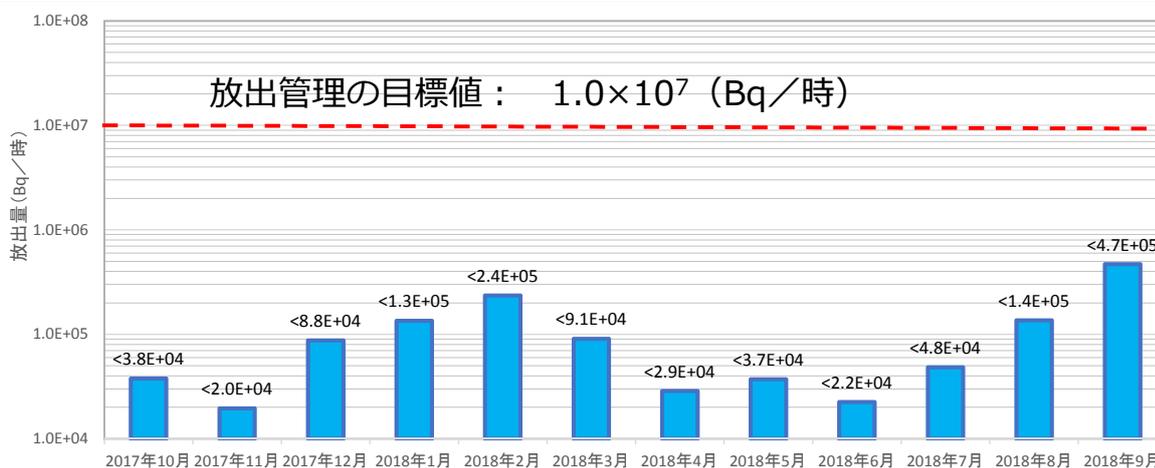
TEPCO

## 東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

### 1～4号機合計放出量評価

TEPCO



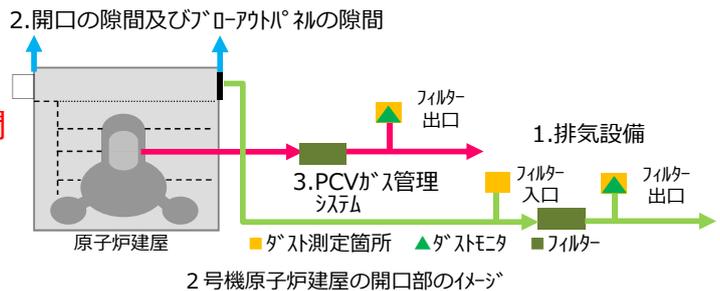
- ✓ 2018年9月の評価上の放出量は、放出管理の目標値を十分下回る結果になったが、前月より増加した。
- ✓ これは、2号機の残置物撤去作業により排気設備入口（オペフロ内）の空气中放射性物質濃度が上昇したことで、評価上、放出量の評価値が増加したものである。
- ✓ なお、放出量評価値は実際の建屋からの放出量を示したのではなく、実際の放出量は評価値より小さい。
- ✓ また、当該作業時における2号機原子炉建屋開口部近傍（西側構台）に設置しているダストモニタに上昇はなく、モニタリングポストの値も低いレベルで推移していることから、周辺への影響はない。

放出量の評価方法

放出量 = 放射性物質濃度 × 排気風量

2号機の場合、以下3カ所を評価

1. 排気設備出口
  2. 開口の隙間及びブローアウトバルブの隙間
  3. PCVガス管理システム
- このうち、2.が増加した。



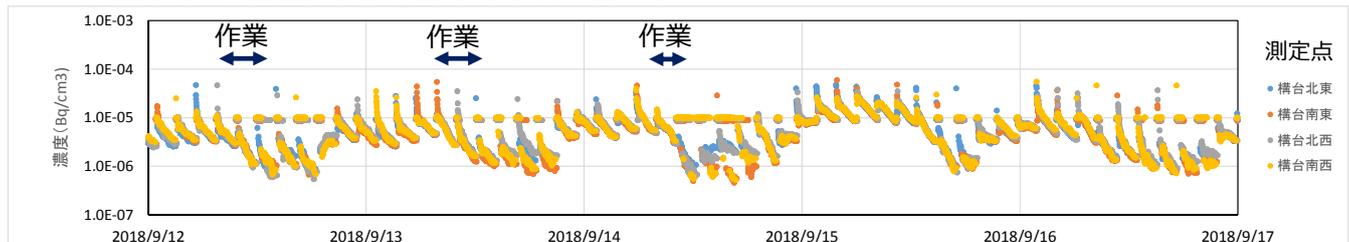
放出量評価においては、過小評価となることを避けるため、以下の通り保守的な条件を設定している。

- ✓ 排気風量（建屋からの漏えい量）の条件設定  
排気風量に比例する建屋の開口部面積に「設計面積」を採用。  
（実際の開口部面積は「設計面積」より小さいと考えられる）
- ✓ 放射性物質濃度の条件設定  
放射性物質濃度にオペフロ内の放射性物質濃度を採用。  
（建屋隙間から出るときの濃度はオペフロ内濃度より低いと考えられる）

以上より、放出量評価値は実際の建屋からの放出量を示したのではなく、実際の放出量は評価値より小さい。

2号機原子炉建屋西側構台のダストモニタ及びモニタリングポストのトレンド

2号機原子炉建屋西側構台のダストモニタ

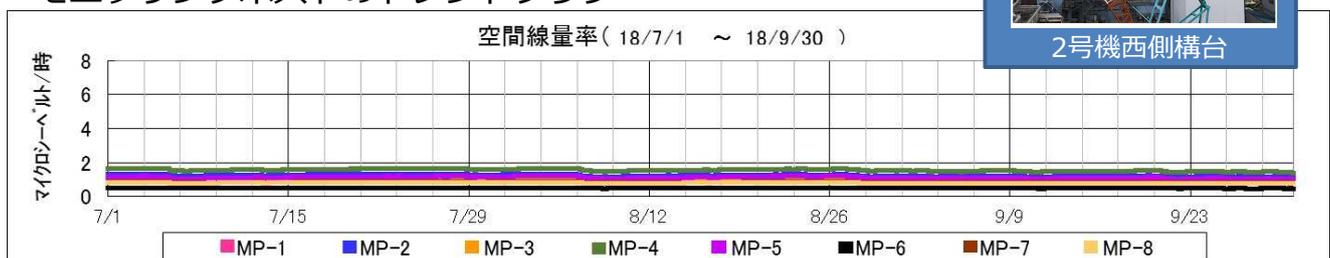


- ✓ オペフロ作業の影響によるダストモニタの上昇はない。  
（構台濃度 < 作業中オペフロ濃度）

ダストモニタは構台四隅に設置

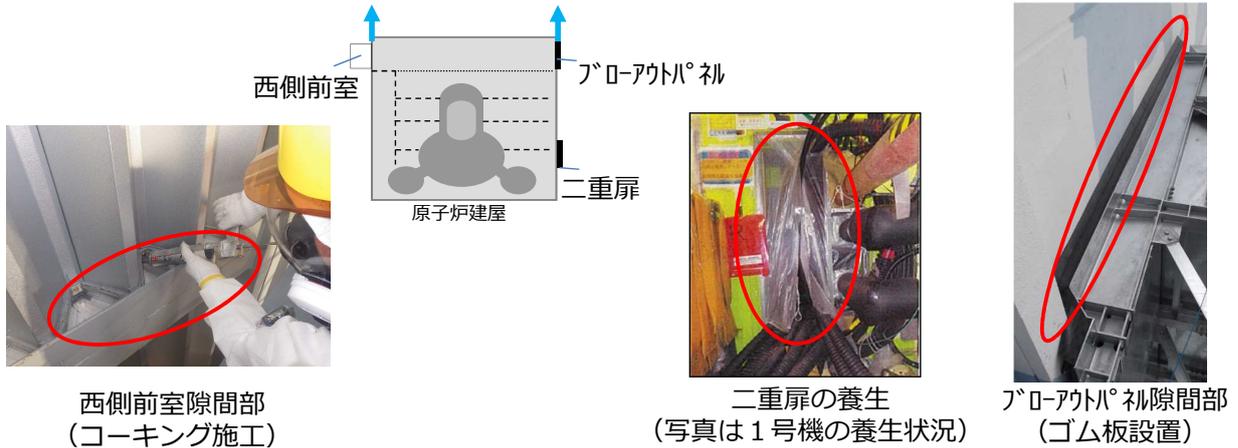


モニタリングポストのトレンドグラフ



- ✓ 低いレベルで推移しており、周辺への影響はない。

- 極力放出量評価を実際の値に近づけるため、建屋からの排気風量評価値を低減する対策として、10月中に原子炉建屋の開口部の一つである二重扉をシート養生し、開口部面積を低減する。
- 上記対策実施後、開口部面積を見直し、放出量評価に反映する。  
また、既に実施済みのブローアウトパネルの隙間へのゴム板設置、西側前室隙間へのコーキング施工により、設計時の開口部面積よりも狭いことを現場確認したため、ブローアウトパネルと西側前室の開口部面積についても併せて見直す。
- 今後、漏えいする実際の放射性物質濃度を使用した評価方法を検討する。



西側前室隙間部  
(コーキング施工)

二重扉の養生  
(写真は1号機の養生状況)

ブローアウトパネル隙間部  
(ゴム板設置)